

Ⅲ 発達の段階に応じた取組

平成30年3月改訂の「道徳教育の手引き」にある実践事例をそのまま掲載しています。

幼稚園の取組

「協同的な活動を通して思いやりの心をはぐくむ ～5年生との交流を通して～」

(1) 主題名

「協同的な活動を通して思いやりの心を育む」
～5年生との交流を通して～

(2) 主題設定の理由

本園の目指す幼児の姿に「元気に仲よく遊べる子」を掲げ、様々な人とかかわる体験や、幼児同士が互いに影響し合う経験を繰り返し行うことで、幼児自身が集団の中のかげがえのない一員であることを知り、仲間への信頼感をもつことができるようになることを目指している。

本園は、核家族化の進行や地域社会の変化に伴い、園児数が減少傾向にある。また、近くに遊び場がなかったり、家同士が離れていて近所に遊ぶ友達がいなかったりといった状況から友達同士のかかわりが希薄化傾向にある。しかし、本園は小学校と隣り合わせであるため、幼小連携・接続を踏まえた様々な交流活動を積極的に行える環境にある。「人とかかわる力」を身に付けていく機会が少なくなる現状の中、幼児にとって幼稚園だけでは経験できない多くの学びや感情体験を協同的な活動の中で育むことができるのではないかと考え、交流活動を設定した。

さらに、幼児が5年生と一緒に活動していく中で、優しく教えてもらったり、手助けしてもらったりしながら、協同的な活動を進めていくことの喜びや心地よさを味わう経験をしていくことは、幼児自身も自分の視点からでなく、相手の立場に立って物事を捉えるという思いやりの気持ちを育むことに繋がっていくと考えた。今後も一人一人がその子らしく遊ぶ中で、生き生きとした人間関係が育つことを願い、本主題を設定した。

(3) ねらい

- 5年生と目的を共有し、話し合いながら一緒に遊びを進めていくことを楽しむ。
- 5年生の優しさにふれながらいろいろな課題に挑戦し、やり遂げた喜びや達成感を味わう。

(4) 交流活動当日までの流れ（幼児の活動）

<交流計画>

交流	月日	ねらい	活動内容	幼児の姿
一緒に遊ぼう	1 5/10	・小学校の様子を知り、5年生に親しみをもつ。	・小学校へ散歩に行き校庭で一緒に遊ぶ。 ・一緒に遊んでほしい気持ちを伝える。	・小学校に興味を示し、遊びに行った時に「いっしょにあそんでください。」の手紙を渡した。 
	2 6/2	・5年生と一緒に遊ぶことに期待をもつ。 	・小学校の校庭で遊ぶ。 ・遊具等で一緒に遊ぶ。	・5年生とペアになり、ほとんどの幼児が遊びたい遊具で一緒に遊んでいた。 ・自分の思いを伝えられない幼児も5年生と一緒に過ごす経験を繰り返すことで笑顔が見られ、活発に遊ぶようになった。
	3 6/5			

	4	6/8	<ul style="list-style-type: none"> 5年生に自分たちの遊びを知らせ、一緒に遊ぶ楽しさを感じ満足感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊びを知り、5年生も参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生が仲介役になり話をまとめたり、新しいアイデアを提供してもらったりして新たな刺激を受けることができ、さらに遊びの目的がはっきりしていき、満足感が味わえた。
	5	6/12			
	6	6/19	<ul style="list-style-type: none"> 5年生と繋がりを感じながら一緒に遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園で一緒に体操や水遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生に対して緊張感は感じられず、「たくさん水かけたら逃げて行っちゃった。」「お兄さん逃げるの早いんだよ!」と一緒に遊んだ満足感を味わうことができた。
がんばれ運動会	7	9/12	<ul style="list-style-type: none"> 5年生に教えてもらうことに安心感をもち、意欲的に活動に取り組むようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会練習での交流。(速く走るコツやリレーの方法を教えてもらう。) 最後にロックソーランを一緒に踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> 『腕を振るのが上手だね。』と言われて嬉しかった。』『走るの速くなったよ。』と褒めてくれた。』など自分を認めてくれる言葉をかけてもらえたことが嬉しかったようである。  
	冒険ごっこ	8	10/4	<ul style="list-style-type: none"> 友達や5年生との繋がりを感じながら思いを出し合い、イメージを広げていくようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 冒険する場所は、どんなところなのか、どんなコースにするか話し合いをする。
9		10/24	<ul style="list-style-type: none"> 友達や5年生と共通の目的をもち、一緒に活動する喜びを味わうようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際にコースを作っていく。 他のグループに自分たちの冒険コースを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生がリードして話を進めてくれることやアイデアが豊富なことで「お兄さんと一緒だといろいろなことがすぐに決まってすごいんだよ。」と遊びの目的がはっきりしていき、どんな冒険コースになるんだろうと期待感が高まった。
10		10/26	☆保育公開 ※以下詳細		

(5) 展開

<ねらい>

○5年生と目的を共有し、話し合いながら一緒に遊びを進めていくことを楽しむ。

○5年生の優しさに触れながら、いろいろな課題に挑戦し、やり遂げた喜びや達成感を味わう。

時間	○活動内容 ☆予想される幼児の姿	・教師の援助
9:50	○小学校の体育館に集まる。 ☆5年生に元よく挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 不安になる幼児もいると思われるため、事前にどんなことをするのか話し合いをし、目的をもたせることで安心して活動に取り組めるようにする。 5年生が中心に準備を進めていくと思われ、幼児は見ているだけになってしまうことがないように「何をもってきたらいいかな?」など、一緒に考えていながら、準備させていく。 5年生が手助けしている場面を捉え「5年生に手伝ってもらってよかったね。」など、嬉しい気持ちに共感する。 コースが完成した喜びをグループみんなで味わうことが出来るように、仕上がりを認めていく。
10:00	○グループに別れ、準備する。 ☆分担して準備を始める。 ・自分の役割を確認する。 ・自分の冒険コースを試してみる。	
		
10:20	○一緒に遊ぼうの会をする。 (司会5年生) ・冒険コースの紹介 ・本日の流れ(教師) ・先生の話(注意事項)	<ul style="list-style-type: none"> ペアの5年生と一緒に座ることで、親近感をもち一緒に活動することに期待をもたせていく。 冒険している雰囲気が出るように「この岩登れるかな?」「ワニに食べられちゃうよ!」など声かけをしていく。
10:30	○他のグループの冒険コースに前半と後半に分かれ、ペアで一緒に回る。	<ul style="list-style-type: none"> 5年生が手伝ってくれたり、優しく声をかけてくれたりする場面を捉えて、「お兄さんに助けてもらってよかったね。」など、5年生の優しさに気付かせていく。
10:45 交代	☆行きたいコースに一人で勝手に行ってしまう。 ☆他のグループのコースに行ってみることで、できたことや5年生に手助けしてもらえたことなどを喜ぶ。	
11:00	○片付けを始める。 ☆5年生と一緒に運ぶことを楽しんでいる。	
11:20	○終わりの会をする。(司会5年生) ・今日の感想をペアに伝え合う。 ・お互いに言われてうれしかったことを発表する。 ・終わりの言葉「ありがとうございました。」 ・幼稚園児から5年生にお礼を言う。さようならの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 「冒険できた?」「どこが難しかった?」など聞いていくことで、困難なことをクリアできたことのほうが、満足感を味わえることに気付けるようにする。 5年生と一緒に片付けている姿を認め、励ましていくことで、5年生との活動に喜びを感じられるようにする。 全体の中では、なかなか自分の思いを話せない幼児もペアの5年生には話せるように、教師が橋渡しをしていき、思いを引き出していく。 感謝の気持ちを込めてお礼が言えるようにする。
11:30	・5年生と握手をして別れる。	<ul style="list-style-type: none"> 握手をしたりすることで親近感をもたせていく。

(6) 事後活動

交流10回目(冒険ごっこ)を終えた後、クラスで活動の振り返りを行った。初めて5年生と一緒にコースを回り楽しかったことやできない所を助けてもらい、嬉しかったことを一人一人が発表していた。後日、年少組にやらせたいという思いから、今度は自分たちが年少組に優しく教えたり、助けてあげたりする姿が見られた。

(7) 幼小教諭による事前・事後の検討会

ア 事前検討会

- ・年度当初に、交流のねらいと交流活動の計画を話し合った。
- ・交流活動前に、幼児と児童にそれぞれのねらいを確認し、活動の流れや援助の方法を共有する。
- ・交流ごとに5年生からの感想を聞き、次回の交流に生かしていくようにする。

イ 事後検討会

- ・交流後、幼児と5年生それぞれに感想を聞き、次の交流活動に生かせるようにした。
- ・公開保育当日には、幼稚園教諭と小学校教諭、指導主事を交えて協議会を行った。

[協議会で出た成果と課題]

- ① 冒険ごっこだけでなく他の交流から行ってきたことで、お互いに気持ちが打ち解け、安心感をもって一緒に作り上げたのは良かった。
- ② 交流を始めた頃は、幼児も児童も個人差があり自然に接することが難しい場面も見られたが、ペアを決めて交流を進めていったことで、繋がりを深めることができた。
- ③ 一緒に作り上げていくことで、自分たちでルールを決め、それを守ろうとする気持ちが伝わってきた。
- ④ 幼児ができないことや困っている場面を5年生が励ましたり、出来るように設定を変えたりするなどの心遣いが見られた。

(8) 交流活動後の事例

<事例> 「年少さんにやらせてあげようよ。」 ～年少とのかかわりの中で～

(11月中旬 ミニ冒険コースを作る)

冒険ごっこの楽しさを思い出し、「またお兄さんたちとやりたいな。」という思いがあったが「年少さんにやらせてあげようよ。」という意見が出て準備を始める。小学校の体育館のように広い場所ではなく遊具も少ないが、自分たちで設定を工夫し、年少組が楽しめるように作り上げていった。「このの上に乗って投げるんだよ。」と手をもつて支えてあげるなど、実際に5年生からしてもらったことと同じようにやろうとする場面が多く見られ、優しく接する姿が見られた。



(9) 保護者アンケート

- ・近所に小学生がいても今までは一緒に遊ぼうとしなかったが、自分から「遊びたい。」と言いにいき自然にとけ込むことができるようになった。
- ・5年生と接してわからないことを優しく教えてもらったり、面倒をみてもらったりしたことで、家でも「僕はお兄ちゃんだから。」と譲ったり、我慢したりすることが度々あり、お兄ちゃんという自覚がでてきた。
- ・小学校に通うことが楽しみになった。
- ・交流後は、「お兄さんお姉さんみたいになりたい。」と話している。
- ・小学校入学前に上級生と接する機会があり、小学校入学の不安が少しでも減って良かった。

小学校の取組

令和〇〇年度道徳教育全体計画（例）

〇〇立〇〇小学校

日本国憲法 教育基本法
学習指導要領

千葉県における道徳教育の主題
『『いのち』のつながりと輝き～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～』

〇〇市教育ビジョン

学校教育目標

「学び合い 支え合い 高め合う子」

- 主体的に粘り強く課題や問題を解決する子
- お互いを認め合い、思いやりのある子
- 自他の生命や健康を大切にしようとする子
- 人や社会に積極的に関わろうとする子
- 地域や学校を大切に、外国などの異文化を大切にする子

〇〇中学校との連携
こども園・幼稚園・保育園との連携

子どもの実態
保護者の願い
教職員の願い
地域の願い

道徳教育の目標

例) 生命に対する畏敬の念をもち、他者を思いやる心をもって、たくましく生きる基盤となる道徳性の育成を目指す。

例) 思いやりの心をもち、相手の立場に立って館あげることのできる子の育成。

道徳教育の重点目標

- ・ 「千葉県道徳教育推進のための基本的な方針」に基づき、道徳教育の充実を図る。
- ・ 心に響く道徳授業の展開や多様な体験活動を通し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ・ 内容A 自己を見つめ希望と夢をもって、より高い目標の実現を目指し努力しようとする子の育成
- ・ 内容B 思いやりや謙虚な心を持ち、互いに信頼し合って、協力し助け合おうとする子の育成
- ・ 内容C 公共心や公德心を養い、進んで働き、よりよい社会を築こうとする子の育成
- ・ 内容D 生きることを喜び、自他の生命を尊重しようとする子の育成

各校の実態に合わせ、重点とする内容のみの記載でよい。

低・中・高学年別目標

内容	低学年	中学年	高学年
A	よいことと悪いことの区別をし、よいと思ったことは進んで行おうとする。	正しいと判断したことは、勇気をもって行うとともに、過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気に生活しようとする。	より高い目標を立てて、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする。
B	気持ちのよいあいさつ、言葉遣いや動作などに心掛けて、明るく接するとともに、日ごろ世話になっている人々に感謝しようとする。	礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接しようとする。	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする。
C	約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にしようとする。	約束や社会のきまりを守り、公德心をもとうとする。	公德心をもって法やきまりを守り、進んで義務を果たすとともに、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする。
D	生きることを喜び、自他の生命を尊重しようとする。	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする。	生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする。

4つの視点すべてについてではなく、各校の実態に合わせ、課題を明確にし、重点とする内容のみの記載でよい。また、学年ごとの記載でもよい。

各教科における道徳教育

各教科の指導目標の達成を目指す中で、道徳教育との関連をふまえ、道徳的判断力を養い、道徳的心情を豊かにし、道徳性にかかわる実践意欲と態度を育てる。

国語	・ 互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高め、豊かな心情を育てる。 ・ 我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつないでいこうとする心情を育てる。
社会	・ 社会の一員として、主体的に生きる力を育む。 ・ 我が国や地域の歴史に対する興味・関心を深めるようにする。 ・ 国際社会の一員としての役割を果たそうとする態度を養う。
算数	・ 自主的に考え、責任をもって行動する態度を養う。 ・ 有用性や美しさを感じ取る、豊かな感性や情操を育てる。 ・ 主体的に対象にかかわる態度を養う。
理科	・ 生命を愛護、生命の連続性や神秘性を感じ生命を尊重する態度を養う。
生活	・ 意欲的に生活する心を育む。 ・ 生命を大切にする心情を育てる。 ・ 自分のよさや可能性に気付き、それを伸ばそうとする心情を育てる。 ・ 支えてくれた人々に感謝できる心情を育てる。
音楽	・ 豊かな情操を育てる。 ・ 我が国や地域の伝統・文化を尊重し、よさや魅力愛する心を育てる。
図工	・ 様々な国や人々が共通にもっている美に対するあこがれなどを感じ取ったり理解したりする心情を育てる。
家庭	・ 生活の自立を目指し生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度を養う。
体育	・ 規範意識を育てる。 ・ 自己のよさや可能性に気付き、自尊感情の高まりにつなげていくようにする。 ・ 自他の生命を尊重し、主体的に他者とかかわっていこうとする態度を養う。
外国語	・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

道徳科の指導方針

- 道徳教育の要として、全教育活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、年間指導計画に基づき、計画的、発展的に指導
- 一人一人の児童が、道徳的諸価値を理解し、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるよう、道徳的判断力、心情、実践意欲、態度を育成
- 言語活動や体験活動を充実
- 実践力の育成
- 指導法の工夫改善、道徳科授業の充実
- 基本的生活習慣の定着を図り日常の教育活動の中で前向きな姿勢で自らの道徳性を高めようとする児童の育成

特別活動における道徳教育

- ・ 学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事のいずれにおいても「望ましい集団活動」を展開し、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性を育成する。
- ・ 特別活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であると捉え、学級や学校の生活づくりのために自己の責任を果たす態度、多様な他者と互いのよさを認め合って協力する態度、規律を守る態度などを養う。

総合的な学習の時間における道徳

- ・ 自ら課題を見つけて取り組む中で、自己の内面を見つめ、夢や希望をもって未来に向けて人生や社会を切り開いていこうとする態度を育てる。

外国語活動における道徳教育

- ・ マナーやルールを意識しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
- ・ 自国の文化への理解を深め、異なる文化をもつ人々と共に生きようとする態度を身に付ける。
- ・ 外国語を通じて異なる文化に触れることにより、異なる文化をもつ人々と積極的にかかわろうとする態度を身に付ける。

生徒指導における道徳教育

- ・ 基本的な生活習慣の形成を中心とした実践的態度を養う。(朝の会・帰りの会・掃除の時間・給食の時間など)
- ・ 児童理解に努め、温かい学級、学年の雰囲気づくりに努める。

学習環境の充実・整備

- 言語環境を整えて豊かな情操を養う。
- 道徳教材環境づくり
 - ・ 人的環境の充実 ・ 教職員と児童・児童相互の信頼関係・全教職員の共通理解・協力体制
 - ・ 学年交流・異学年交流・体験活動
- 物的環境の充実・整備
 - ・ 動植物の育成

学年・学級の道徳教育の充実

- 学級における指導計画の作成と推進する。
- ・ 学級の子どもの実態と指導の基本方針
- ・ 豊かな体験活動、教育環境、基本的な生活習慣、家庭・地域との連携の内容と方法
- ・ 各教科等との関連

家庭・地域との連携

- 相互理解と信頼の上に協力し、連携して子どもの道徳性の育成を図る。
- ・ 学校・学年だより、保健・給食だより等
- ・ 授業参観、懇談会、個人面談、PTA活動
- ・ 学校支援コーディネーターが参加の教育活動
- ・ 地域の人々との交流

全体計画・別業(例)【道徳教育と各教科・領域等との関連 (小学校第4学年)】 (千):「千葉県道徳教育映像教材」(白):自作資料

※縦軸を道徳教育の内容項目、横軸を教科・領域等で整理し、各内容に時期を加える方法でまとめられた例

	道徳科		国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	特別活動・行事等
	内容	教材名	外国語							総合的な学習の時間
A 自分自身に 関すること	善悪の判断 自律 自由と責任	4月よわき太郎							7月 育ちゆくからだと私	
	正直 誠実	6月 ありがとう								
	節度 節制		スピーチ							7.12.3月 長期休業の過ごし方
	個性の伸長						5月 自画像			
	希望と勇気 努力と強い志								基礎の運動 短距離走 長距離走	12月 校内マラソン大会
	真理の探究									
B 人との関わり にすること	親切 思いやり	5月 心と心のあく手	1月 ポスターセッションをしよう			12月 ものの温まり方を調べよう	12月 曲の特徴をとらえて		7月 マット運動	交流学級との交流
	感謝	2月 ありがとう6年生								4~7月 ごみとリサイクル 3月 二分の一成入式 3月 6年生を送る会
	礼儀	3月 なごみのある温泉浴場								
	友情 信頼	4月 ブラジルからの転入生							1月 ハンドベースボール	
	相互理解、寛容	10月 祭り日							5月 運動会	
C 集団や社会との関わり にすること	規則の尊重	9月 雨のバス停留所		4~5月 ごみの処理と利用	1月 調べ方と整理のしかた		6月 ふしとリズム			6月 廊下歩行について
	公正 公平 社会正義	10月 ひびけ心のリコーダー(千)								
	勤労 公共の精神	4月 みんなのためにできること								4月 掃除のしかた 11月 フェスティバル
	家族愛 家庭生活の充実	11月 ブラッドレーの請求 12月 わたしとお母さんとおばあちゃん(千)	10月 一つの花					3月 ハッピーカード		1~3月 二分の一成入式
	よりよい学校生活 集団生活の充実	12月 みんなまってるよ					2~3月 音楽パーティー		5月 運動会	4月 1年生を迎える会
	伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	6月 郷土の祭りや行事(自)	6月 昔のことを調べよう	7月 古い道具と昔のくらし 9月~3月 千葉県の学習			7月 日本の音楽に親しもう 10月 お祭りや民謡を訪ねて	1月~3月 木版画		9.10月 境川に親しもう
	国際理解 国際親善	1月 おはしちゃんと思えないの	11月 アジアの笑い話	9月 千葉県のすがた						
D 生命や自然、崇高なもの の関わり にすること	生命の尊さ	6月 レッサーパンダの赤ちゃん(千)	2~3月 ごんぎつね			11月 わたしたちの体を調べよう			7、12、3月 育ちゆくからだと私	6月 避難訓練 1~3月 二分の一成入式
	自然愛護	3月 三番瀬の自然を守ろう	4月 春のうた 7月 とんぼの楽園づくり	6月 水はどこから		4.7.9.3月 生き物を調べよう		5~6月 環境ポスター		4~7月 ごみとリサイクル
	感動 畏敬の念	1月 百羽のつる				9月 がい数の表し方		9月 お話の絵		
	よりよく生きる喜び	9月 たった一つの命つながる								

すべての内容項目が指導できるよう「教科書」「私たちの道徳」「千葉県道徳教育映像教材」を計画的に配置する。
※内容項目のタイトルだけでなく、指導要領解説の内容項目の指導の要点も考慮し教材を選定する。

○全体計画別業には、各教科等と道徳教育との関連を記載する。無理にすべての単元名、教材名を当てはめるのではなく、各学校や児童の実態に応じて重点化を図り、具体的な見通しのもてる計画を作成する。作成後は、実施の有無や追加・修正などを記載できるよう職員室に掲示するなどして活用を図る。
○この形式はあくまで一例。各学校で、すでに作成されている別業を見直し修正が必要な場合は修正する。

登場人物への自我関与を中心とした授業例

小学校低学年 指導案

(1) 主題名

「支え合う喜び」（広い範囲の友達とのつながりを喜ぶ）

友達の気持ちを考えて **B友情**

(2) 教材名「およげないりすさん」（出典「わたしたちの道徳1・2年」文部科学省）

(3) 「考え、議論する道徳」の授業としての工夫

低学年の児童の発達段階では、場面発問により、話の中に入り込み登場人物の立場や気持ちを自分のこととして考え共感しながら考えること（自我関与）は有効である。役割演技をしたり、気持ちを色で表して可視化したりすることを通し、主人公の「仲間外れにされたときの寂しさ」や「みんなと一緒に遊ぶうれしさ」を十分に感じ取らせる。同時に、仲間外れをしてしまった側の気持ちの変化についても考えさせ、ねらいとする価値に迫る。さらに、登場人物の体験を自分の経験としてとらえさせ、日常生活での自分はどうかを考えさせていくために、終末では児童が友達と助け合ったり、仲よくしたりしている場面の写真を大型テレビで映して見せる。その時の出来事や気持ちを話し合うことで、友達と仲よくできてうれしかった気持ちを表出させ、道徳的实践意欲へとつなげていく。

(4) 主題設定の理由

本主題は「『支え合う喜び』—広い範囲の友達とのつながりを喜ぶ」である。友情や助け合いは、社会生活を営んでいく上で、欠かすことのできない基本的なものである。この時期の児童は、自己中心性がかなり残っているが、他人の立場を認めたり、理解したりする能力も徐々に発達してきている。よりよい友達関係を築いていくためには、相手の気持ちになって助け合い、励まし合って信頼感や友情を育てることが大切である。相手の気持ちを考えて思いやる行為がお互いの心の結びつきをさらに深めていくことについて考えさせたい。

本資料は、泳げないことを理由に島へ連れて行ってもらえなかったりすが、最後には、かめの協力を得て、他の仲間と共に島へ行き、友情を深めるという内容である。友達と仲よく遊ぶことのよさや、友達のことを考えて助け合うことの大切さについて考えることのできる資料である。仲間外れの状況は、低学年における友達とのトラブルとして見られる状況であり、こうした場面について考えることを通して、友達と仲よく、助け合うことについて考えを深めることができる。

本時は、りすの寂しい気持ちと、みんなで遊ぶことのうれしさや楽しさに焦点を当てて授業を構成し、ねらいとする価値に迫る。

(5) ねらい

友達の気持ちを考え、誰とでも仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

(6) 評価の場面と方法

①展開場面で、役割演技をしたり見たりしている様子から評価する。

②学習のまとめの場面で、ワークシートや発言から評価する。

③年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で把握する。

※記述することに抵抗のある児童生徒への対応として、ワークシートは記述する部分だけでなく、本時を振り返り、自分に合うものを選んで丸を付ける部分を用意した。

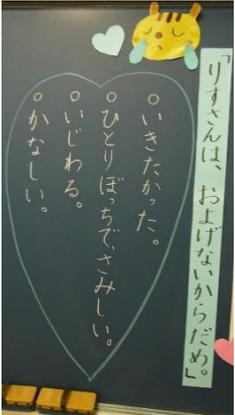
《学習状況について》

・役割演技を通して、主人公に自分自身を映し出して自らの気持ちや考えを語っていたか。

《成長の様子について》

・道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりしていたか。

(7) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点・評価 (★)
導入 (3)	<p>1 日常生活で友達と仲よくして楽しかったことやうれしかったことを想起する。</p> <p>○友達として楽しいのはどんなときですか。</p>	<p>・一緒に遊んでいるとき。</p>	<p>・気持ちを表す色についての共通理解を図る。 青色・・がっかり・悲しい 桃色・・嬉しい・楽しい</p> <p>・本時のねらいとする価値の方向付けを図る。</p>
展開 (30)	<p>2 「およげないりすさん」 P. 78～79 L7 を聞いて話し合う。</p> <p>○「りすさんは、およげないからだめ。」と言われて、一人で置いていかれたりりすさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p>  <p>3 「およげないりすさん」 P. 79 L8～79L11 を聞いて話し合う。</p> <p>○島で遊んでいた3人は、なぜ少しも楽しくないのでしょうか。</p> 	 <p>・ひとりぼっちでさみしい。</p> <p>・一緒に行きたいな。</p> <p>・いじわるだなあ。</p> <p>・断られて悲しいよ。</p> <p>・友達だと思っていたのに、ひどいよ。</p>  <p>・りすさんがいないから。</p> <p>・りすさんのことがかわいそうになったから。</p> <p>・友達なのに、りすさんに悪いことをしてしまったと思っているから。</p>	<p>・挿絵を大型テレビに投影しながら読み聞かせをする。はじめから全文を聞かせず、場面を分けて提示する。</p> <p>・りすとかめ、白鳥、あひるは、友達だということを押さえる。</p> <p>・読む前には、「主人公の『りす』になって、りすさんの気持ちを考えていこう。」と話し、考える観点を与える。</p> <p>・りすのお面をかぶせたぬいぐるみと教師の演技を見せる。教師が「およげないからだめ。」の台詞を言い、見ている児童がりすの寂しい気持ちを捉え、十分共感できるようにする。</p> <p>・りすの寂しい気持ちを捉えた意見が出たところで、黒板に貼っておいた目のないりすの顔の表情を考えさせる。黒板のりすの顔に泣いている目を描き、涙を貼る。さらに「この時のりすの気持ちをハートの色で表すと？」と問い、青いハートも心の色として板書に位置付ける。</p> <p>・なぜ楽しくないかを考えさせることにより、りすに対するみんなの気持ちが変わってきたことを考えさせる。</p> <p>・「りすさんがいないから。」という児童の反応に、「どうしてりすさんがいないと楽しくないの？泳げないからだめって言ったのは自分達だよ。」と問い返し、りすを置いてきてしまったことへの後ろめたさにも気付かせる。</p> <p>・価値についての考えをより深めさせるために、「りすさんは泳げないから仕方ないのではないか。」と切り返しの発問を行う。</p>

	<p>4 資料の続きを聞いて話し合う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・りす、かめ、白鳥、あひるになって、役割演技をする。前日からの気持ちの変化を、会話文を参考に自由に発言させ、見ている児童もりすのうれしい気持ちに共感できるようにする。また、他のみんなの表情や様子から、りすだけでなく、みんなもうれしさや楽しさを感じていることを捉えさせる。役割演技に慣れていない学級では、教師と一緒に演技に入る方法もある。 ★役割演技を通して、友達の気持ちを考えて行動することのよさや大切さに気付いたか。(役割演技) ・自分の考えを明確にもつために、りすの言葉をワークシートに記入する。 ・発表した児童に、「今のりすさんの心の色は何色？」と問い、考えの上にハートを貼る。発表者の数が限られてしまうため、同じような考えをもつ児童は挙手させ、挙手した児童の分もハートを貼る。そうすることで、発表できなかった児童も自分の思いを表出し、自分の考えも板書の中にあるという満足感をもつことができる。 ・「今のりすさんの顔は、どんな顔かな。」とりすの表情を問い、りすの顔に笑顔の表情を描く。 ・りすの表情やハートの色で気持ちを表すことで、『りす』の気持ちが変わったことを全員で確認する。
	<p>◎かめさんの背中に乗って島へ行くとき、りすさんはどんなことを思っているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島で遊べてうれしい。 ・みんなと一緒にいけてうれしい。 ・みんなありがとう。 ・やさしくされて、とてもうれしい。 ・やっぱりみんな友達だから、やさしいな。 	
<p>終末(12)</p>	<p>5 今日の学習と自己の生活を振り返る。</p> <p>○心がぼかぼかのりすさんのようにみんながいられるには、どうしたらよいでしょうか。</p> <p>○ 1年2組のみんなは、どうでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達みんなとなかよくする。 ・一人ぼっちの子がいたら、誘ってあげる。 ・友達にやさしくする。 ・一人でいたら、「一緒に遊ぼう。」と声をかけてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心がぼかぼかのりすさんのようにいられるには、どうすればいいか」と問うことで、友達の気持ちを考え、誰とでも仲よく助け合っていくという価値の一般化を図る。 ・今日の学習で考えたことを、ワークシートに記入する。 ★友達の気持ちを考え、誰とでも仲よく助け合っていくことの大切さに気付いたか。(ワークシート・発言) ・友達と助け合ったり仲よくしたりしている児童の様子を大型テレビで提示して紹介することで資料と生活をつなぎ、学んだ価値をさらに道徳的実践意欲へつなげる。デジタルカメラで撮影しておいた画像を、SDカードを直接テレビに差し



体験的な活動を取り入れた授業例

小学校中学年 指導案

(1) 主題名

「かけがえのない自分」 正義の実現 C 公正、公平、社会正義

(2) 教材名

「ひびけ、心のリコーダー」 (出典「千葉県道徳教育映像教材」千葉県教育委員会)

(3) 「考え、議論する道徳」の授業としての工夫

本時は、映像教材の長所を生かし、映像を止めて視覚から訴えかけながら発問を投げかけるようにすることで、児童の発言を引き出し、役割演技を通してケンジの気持ちの変化に目を向けさせる。また、映像資料の必要部分を取捨選択して流すことで、考える時間を十分確保していきたい。

役割演技でケンジの気持ちの変化を話し合う際には、価値に迫れるような話し合いの視点を明確に示していく。そして、ケンジの公正・公平に接しようとする態度、偏ったものの見方や考え方にとらわれることなく、他の人と平等に関わろうとしていく気持ちの変化に気付かせたい。教師が発問を投げかける際には、切り返しの発問や考えを引き出すような発問を心掛けていきたい。終末では、本時の学習を振り返り、一人一人ワークシートに書かせ、余韻をもたせて授業を終わりにしたい。

(4) 主題設定の理由

本主題は、「『かけがえのない自分』—よりよい生き方をもとめる」を受けて設定したものである。社会生活を営む上では、正義を重んじ、正しいと考えることを積極的に実行することが不可欠である。公正・公平にすることは、私心にとらわれず、偏ったものの見方や考え方にとらわれることなく、他の人と平等に関わることである。さらに、よりよい社会を実現するためには、不正や不公平を許さない姿勢をもち、差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。

中学年の児童は、様々な集団の中で互いに関わり合いをもち、他の人の立場を考えて行動できるようになる時期である。しかし、周囲の目を意識して、他の人の考えに左右されたり、狭い仲間意識の中で自己に有利な行動をとったりすることがある。そうした行動は、不正やいじめなどの言動につながりやすいものである。いじめなどに見られる身近な差別や偏見は、頭ではいけないと思っても、不正な行為を止めるとなると他の人との関わりの中で、消極的になりやすい一面がある。そこで、誰に対しても公正かつ公平に接し、正義の実現に努める態度を育てたいと考える。

(5) ねらい

ケンジの気持ちの変化を通して、誰に対しても差別することや偏見をもつことなく公正・公平にし、正義の実現が大切だという気持ちを育てる。

(6) 評価の場面と方法

①展開場面で、役割演技をしたり、見たりしている様子から評価する。

②学習のまとめの場面で、ワークシートや発言から評価する。

《学習状況について》

・役割演技を通して、公正、公平、社会正義に関する行為を想起し、問題意識をもったか。

《成長の様子について》

・役割演技や話し合いを通して、多面的・多角的な見方へと発展したか。

(7) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点・評価 (★)
導入 (5)	1 登場人物確認をす る。		<ul style="list-style-type: none"> 人物関係を整理できるよう、人物写真を掲示する。
展開 (30)	<p>2 ケンジが帰宅し、「はーあ。」と言うシーンまでDVDを視聴し、ケンジの気持ちを考え話し合う。</p> <p>○「ぼくのリコーダー知らない？」とマサヤに聞かれ、ケンジはどんな思いで「知らない。」と答えたのでしょうか。</p> <p>○「はーあ。」と言った後にケンジはどんなことを考えていたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勇気が出なかったから。 口止めされていたから。 本当のことを伝えたいけどショウタの仕返しが怖くて言えないから。 知ってるけど、言ったらショウタたちに何か言われるかもしれないから、言えないな。 とりあえず「知らない。」と言っておいた方がいいかな。 マサヤがかわいそうだけど、教えてあげられないな。 友達なのに、嘘ついてしまった。 自分のしたことは間違っているな。 正直に言いたかったのに言えなかった。 お母さんにも嘘をついてしまった。 やっぱり勇気を出して言えばよかったな。 なんで、あの時、とっさに「知らない。」って言っちゃったのだろう。 マサヤがきっと困っているよな。助けてあげなくちゃな。 	<ul style="list-style-type: none"> DVDは、最後まで視聴せずに、効果的な場所で止めて、「考える視点」を与えるようにする。 マサヤをかばってあげるべきなのに、嘘をついてしまったケンジの後ろめたい複雑な気持ちをつかませる。 なぜ、ケンジが「知らない。」と答えてしまったのか、日常生活でも現実に起こり得る状況での、ケンジの心の葛藤をしっかりと、とらえる。 マサヤに対する友情だけではなくケンジに根ざしている正義感に気付けるように投げかける。 正義の実現には、勇気がいることなど「公正、公平、社会正義」を実践に移すためにはどんな心構えや態度が必要か、具体的な考えを引き出す。

3 ケンジが「やめろよ。」というシーンまでDVDを視聴し、ケンジの気持ちを考え、役割演技を通して、話し合う。



◎ケンジはどんな思いで「やめろよ。」と言ったのだろうか。

- ・「やめろよ。」に続く言葉を、考える。
- ・ケンジの役割演技を通して、全体で話し合う。
- ・他の友達の気持ちについて話し合う。

ケンジ

- ・マサヤ君の時と同じ思いをしたくない。
- ・みんなで責めるのはおかしい。
- ・みんなの言葉はショウタを傷付けている。
- ・今回は、見て見ぬふりをしない。

ショウタ



- ・ケンジ君、何で僕のこと守ってくれるの。自分が言われてみてマサヤ君の気持ちが分かった。

マサヤ

- ・ショウタ君に僕と同じ思いはしてほしくない。ケンジ君と同じ思いだよ。
- ・ショウタ君の気持ちが分かるから、助けたい。

クラスメート

- ・何でショウタ君のことをかばうのだろう。
- ・ショウタ君は自分が練習しなかったんだから、言われても仕方がないよ。

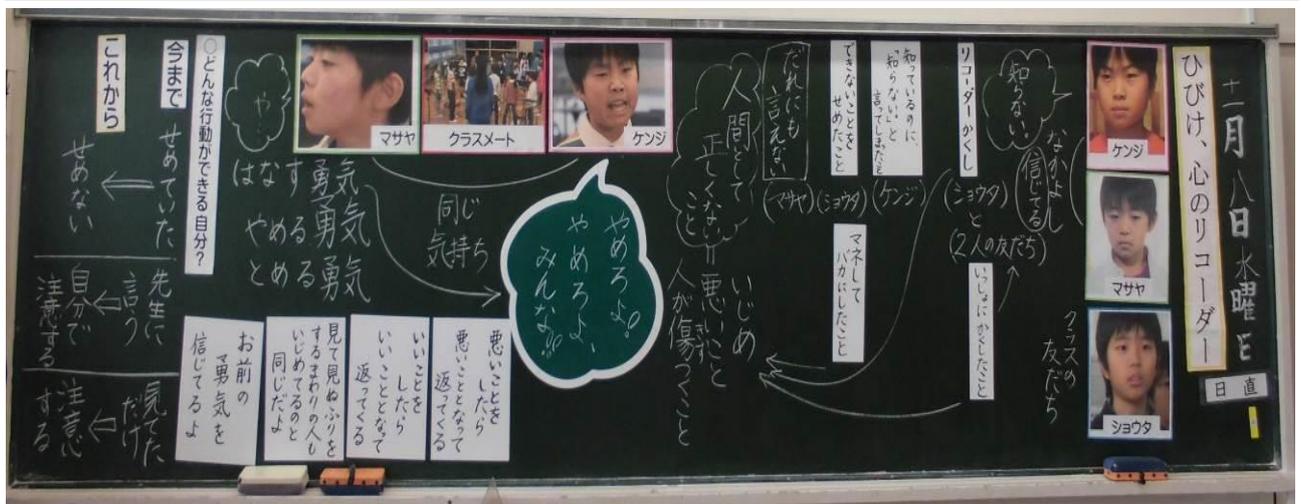
4 続きを視聴し、ショウタの気持ちの変化を確認する。

- ・役割演技の活動を行うことで、ケンジの公正・公平さについて気付かせる。
- ・相手が誰であろうと、人を傷つける言動をしたり、黙って見ていたりすることはできないというケンジの思いを考えさせる。
- ・ケンジの行動が、友情や勇気だけではなく、公正・公平さや正義からくるものだということに気付かせる。
- ・「やめろよ。」に続く言葉を話し合わせ、ケンジの気持ちの変化をしっかりとおさえる。

★役割演技を通して、道徳的価値（公正、公平、社会正義）に関する行為を想起し、問題意識をもったか。
（役割演技、話し合い）

- ・ケンジが自分をかばってくれたことで、自分の行為の愚かさ気付くショウタの気持ちの変化をおさえる。

<p>終末 (10)</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。 ○正しくないことをしている人を見た時に、どんな行動ができる自分でいたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いじめを見た時に、見ぬふりをせずに助けるための行動ができる自分。 みんなが友達を責めている時に、雰囲気に流されて一緒に責めない自分。 	<p>★差別することや偏見をもつことなく公正・公平に行動し、正義の実現が大切だということに気付いたか。 (ワークシート)</p>
--------------------	--	---	--



(8) 他の教育活動との関連

- 国語科の「学級討論会をしよう」で、公正・公平に意見を言う態度を育てる。
- 学校行事の特別支援学校との「交流会」で、自分と違う特質をもった友達とも平等に交流しようとする気持ちを育てる。

(9) ワークシート

ひびけ、心のリコーダー

○正しくないことをしている人を見た時に、どんな行動ができる自分でいたいですか。

名前

（今までの自分）

わかるいことをしている人に注意外でまなみて先生にはうつくすだけだった。

（これからの自分）

わかるいことをしている人にも注意して先生にうんと相談できるようにする。勇気を出せるようにする。

ひびけ、心のリコーダー

○正しくないことをしている人を見た時にどんな行動ができる自分でいたいですか。

名前

（今までの自分）

正しくかいいことをしている人を見て、そのままにしていたと思っ。

（これからの自分）

正しくないことをしている人を見たら、ちゃんと注意する。

これまでの自分を振り返り、本時の学習をこれからの生活にどのように生かすのかを考えることで、自分自身と対話するとともに自分の成長を時間することができる。

問題解決的な学習を取り入れた授業例

小学校高学年 指導案

(1) 主題名

「支え合う喜び」(親切と思いやりの心をもつ)
いろいろな人の立場になって **B 思いやり**

(2) 教材名「思いやりの花がさくとき」(出典「千葉県道徳教育映像教材」千葉県教育委員会)

(3) 「考え、議論する道徳」の授業としての工夫

問題解決的な学習ではまず自己を見つめながら考えることができる道徳的な問題が含まれている資料が必要である。ここでは、児童が道徳的価値に主人公が迷ったり、悩んだりする場面(本教材では主人公の健介さんが悩む)を問題として捉えさせる。そして、「主人公はどうしたらよいだろうか。」と発問することにより、児童が自分のこととして考えることができる。そして、ワークシートに書かせた後で、グループで話し合いを行い、さらに全体でも話し合いを行う。その中で指導者が切り返しなどの補助的な発問をすることで、自分にはない考えを聞いたり、もう一度考え直したりするなど多面的・多角的に考えさせることができる。さらに、話し合いの後にもう一度考えさせることにより、児童の考えがどう変容したか指導者だけでなく、児童自身も把握することができる。また、授業の中で始めから終わりまでキーワードとして「思いやり」という言葉を出していくことにより、「思いやり」についての考えを深めさせていく。

(4) 主題設定の理由

本主題は千葉県道徳教育の指針『「支え合う喜び」—親切と思いやりの心をもつ』から設定したものである。人間は互いに助け合いながら生き、自分が生きているのも家族や周りの人の支えがあってこそである。そして、人間がよりよく生きていく上で「思いやり」は欠かすことのできないものである。そこでは、単に相手に優しくするだけではなく、相手の気持ちや立場を自分に置き換えて考え行動していくことが大切である。

高学年の児童は、活動範囲が広がり、相手の立場になって考えることもできるようになる。しかし、自分の利害関係が優先され、一面的に考えてしまったりすることなどもある。そこで、集団のいろいろな人の立場に立って思いやることの難しさを感じ取らせながら、それでも集団のみんなのためにどうしたらよいか考えさせることにより、いろいろな人の立場を思いやることの大切さに気づかせていきたい。

(5) ねらい

健介の言動を考えていくことを通して、様々な人の立場を思いやった行動をとろうとする態度を養う。

(6) 評価の場面と方法

①展開場面で、ワークシートや発言から評価をする。

②終末場面で、ワークシートや発言から評価をする。

※ワークシートは記述する部分だけでなく、あてはまる項目を選択する部分も用意する。

《学習状況について》

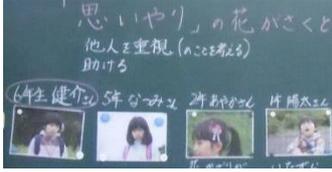
・話し合いを通して様々な考えを聞き、思いやりについて考えを深めることができたか。

《成長の様子について》

・グループや全体での話し合いを通して、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

・「思いやり」に関わる事象を自分自身の問題として捉え、これからの生き方の課題や思いや願いを深められたか。

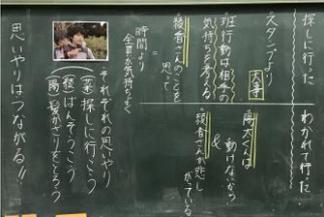
(7) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点・評価(★)
導入 (3)	<p>1 「思いやり」について考える。 ○思いやりのある行動とはどんな行動ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優しくする ・助けること。 ・他の人のことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的にならないように、行動面について考えさせる。
展開 (37)	<p>2 登場人物について知る。</p> <p>3 資料「思いやりの花がさくとき」を視聴し、問題は何か話し合う。 ○健介さんはどんなことに困っていますか。</p> <p>4 健介さんはどうしたらよいかワークシートに書き、話し合う。 ◎みんなのために健介さんはどうしたらよいでしょうか。 ○グループでどんな意見が出たか発表してください。 ○1つの班にどんな話が出たか発表してもらい、それをもとにみんなが話し合いましたよ。 ・それはなぜですか。 ・他の人の立場から考えたらどうですか。 ・それでみんなが嫌な気持ちにならないですか。 ・そうすると困る人はいませんか。 ・友達の考えを聞いて、どう思いましたか。</p> <p>5 もう一度どうするか考えたことを書き、発表する。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・綾香さんの花飾りが落ちた。 ・陽太さんは先に行きたい。 ・綾香さんは花飾りを探したい。 <p>花飾りをとりに行く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綾香さんがかわいそうだから。 ・陽太さんのせいで花飾りがなくなった。 ・綾香さんにとっては、とても大切な物だ。 ・陽太さんを説得して花飾りを探しに行く。陽太さんのことも考えて、納得させ、綾香さんのために行く。 <p>ゴールを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1位になりたいから。 ・時間に遅れてはいけない。 ・綾香さんが悪者になってしまう。 ・先生や他の班にも迷惑をかけてしまうから。  <ul style="list-style-type: none"> ・綾香さんの立場になるとやっぱり自分も探したいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のイラストを見せながら、資料への簡単な導入を図ることにより、場面や登場人物の理解をさせやすくする。 ・問題場面までを視聴させる。 ・よりよい問題解決をさせるために、場面状況の把握を丁寧に行う。 ・全体で問題を確認することにより、全員が問題解決に取り組むことができるようにさせる。 ・始めに各自でワークシートに書かせた後、グループ・全体の順で話し合いを行う。 ・必ず理由も書くように促す。 ・単に方法論の話し合いにならないように、特に大切にしたい気持ちは何なのかについて理由に書くよう助言する。 ・話し合う時は、みんなが嫌な気持ちにならず、納得できる方法について話し合わせる。 ・考えが違う児童の意見にも否定せず、共感的に受け入れ、その上で意見を言うように話しておく。 ・途中で考えが変わってよいことを話しておく。 ・一方に決めた後の結果や他の人の立場だったらどうかなどについても考えるように助言をする。 ・どちらの気持ちもみんなにあることを確認し、その中で大切にすることを考えるように促す。 ・話し合いを聞いて特に大切だと思ったことについて理由に書くように促す。

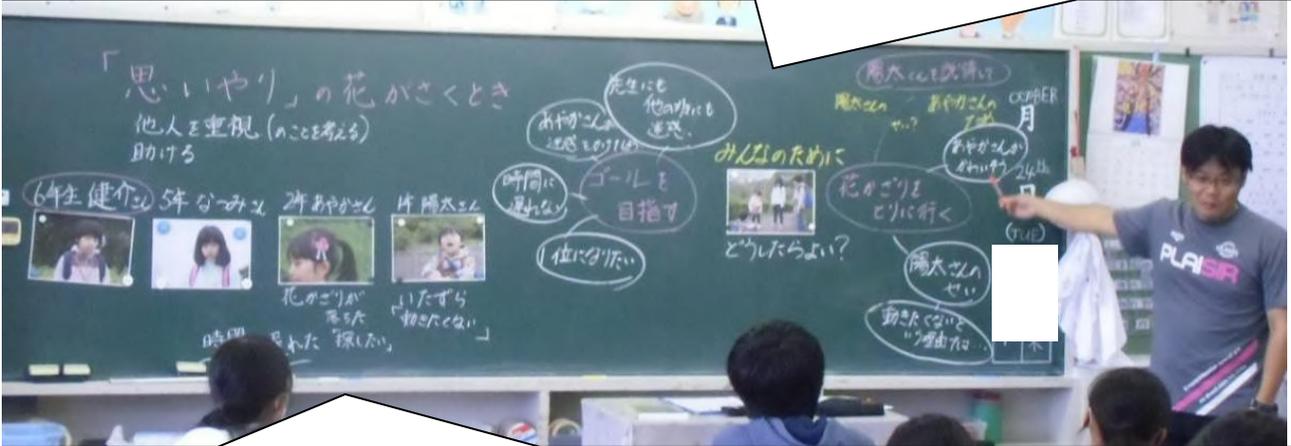
	<p>○話し合いを参考にもう一度健介さんはどうしたらよいか考えよう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 綾香さんだけの理由で他の人に迷惑をかけるわけにはいかない。 時間に遅れてしまうが、綾香さんの花飾りを見つけて、みんなで気持ちよくゴールしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発言に「そういう気持ちもあるね。」と共感しながら聞くようにさせる。 ★様々な人の立場を思いやって考えていたか。 (ワークシート・発言)
<p>終末 (5)</p>	<p>6 学習の感想を書き、発表する。</p> <p>○今日の学習を通して考えたことについて書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> みんなのことに気を配って行動することが大事だと思った。 その人だけではなく、他の人や今の状況や考えて行動していきたい。 思いやりは他人を重視することが大事。一人一人重視して思いやりをしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表された意見について、全員で聞き、共有する。 「思いやり」についての考えが深まっている児童について取り上げる。 ★自分のこととして考え、思いやりについての考えを深めることができたか。(ワークシート・発言)

(8) その他の展開例

上記の展開例とは別に話し合いの後の「学習活動と主な発問 5」から映像の続きを見る展開も考えられる。続きを見た後に、「他のメンバーは健介さんの判断をどう思ったのだろうか。」とさらに立場を変えてみたり、主人公の健介さんの「思いやり」だけでなく「どんなところに思いやりがありましたか。」と考えさせる。その場合「学習活動と主な発問 4」を15分にする。

<p>展開 (10)</p> <p>5 続きを視聴して話し合う。</p> <p>○菜摘や陽太は健介の決断をどう思っただろうか。</p>  <p>○それぞれの思いやりとはどんなことですか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> みんなでゴールすることが大切だから健介の判断はよかった。 髪飾りを探しに戻れてよかった。 みんなでゴールした方がよかった。 綾香のことを考えて髪飾りを探しに行こうと言った。 陽太のことを心配して絆創膏を貼ってあげた。 疲れた陽太のことを心配しておんぶしてあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴールだけを目指して先に行かなかった理由を想像させる。 健介が戻ろうと決断した時の気持ちを考えさせる。 健介の行動によって変化した陽太の気持ちも読み取らせ、思いやりが繋がっていることに気づかせる。 (この後は終末へとつなげていく) 
--	--	--

ポイント 行動の理由をウェビングで板書することにより、同じ行動でも様々な理由があることや、どちらの行動を選んでも納得できる理由があることなどを視覚的に理解させる。



ポイント 登場人物の人間関係を掴ませるために、映像を視聴する前に紹介し、板書しておく。また、誰の視点で視聴するか伝えておく。

(9) 他の教育活動との関連

- ・児童集会や縦割り班活動、普段の生活などで本教材と似た体験をした時のことを思い出せることにより、深い自我関与が期待できる。また、今後する活動に向けて「いろいろな人の立場に立って考えよう」とする態度を育てることに繋がる。
- ・修学旅行や校外学習などにおいて、グループ活動にどんな気持ちで活動していくのか考えさせることにより、伸ばしたい自己や課題について考えを深めさせるようにする。

(10) ワークシート

日付	思いやりの花がさくとき	名前
○「思いやりのある行動」とはどんな行動ですか？		
人に気を遣わせる。こまっている人を助ける。		
○みんなのために健介さんはどうしたらよいでしょうか？		
どうしたらよい？ あやかさんの花がざりを取りに行く。		
理由(なぜそう思いましたか、そう思ったのは何を大切に考えたからですか。)		
陽太さんのせいだ花がざりが落ちたし時間も大切だけど、あやかさんの花がざりを取りに行く。		
○グループみんなのために健介さんはどうしたらよいかもう一度考えてみましょう？		
どうしたらよい？ あやかさんの花がざりを取りに行く。		
理由(なぜそう思いましたか、そう思ったのは何を大切に考えたからですか。)		
ゴールをしないと、先生や他のクラスにも迷惑がかかると、あやかさんもかわいそうだし、陽太も説得して取りに行く。		
○今日の学習を通して、考えたことについて書きましょう。		
人には、いろいろな考えがあることがわかった。自分からな行動をしようと、どちらかを選ばなければいけないことがわかった。		
○次の質問の数字に○をつけましょう。 4 そう思う 3 まあまあ 2 あまり 1 まったく		
①真剣に考えることができた。		
②友達の様子が参考になった。		
③学習の中で、自分の考えが深まった。		
④学んだことを今後行っていきたい。		

日付	思いやりの花がさくとき	名前
○「思いやりのある行動」とはどんな行動ですか？		
い何かを手伝ったりする ・且かけてあげたりする。他人のことを考えたりする。		
○みんなのために健介さんはどうしたらよいでしょうか？		
どうしたらよい？ 取りに行く		
理由(なぜそう思いましたか、そう思ったのは何を大切に考えたからですか。)		
陽太さんがいたすからあやかさんのかみかさりかなくな、たので、陽太さんのせいで、陽太さんがいながら、でも取りに行く。そして自分もいける。みんなの為にゴールまで行きたい。		
○グループみんなのために健介さんはどうしたらよいかもう一度考えてみましょう？		
どうしたらよい？ 取りに行かない		
理由(なぜそう思いましたか、そう思ったのは何を大切に考えたからですか。)		
あやかさんが逆に、わかままになってきているし、しかも、他のクラスにもめい惑なので、取りに行かない。		
○今日の学習を通して、考えたことについて書きましょう。		
思いやりをしたくても、逆に、他の人に迷惑になるので、ちゃんと考えて、思いやりをすることが大切だと思った。		
○次の質問の数字に○をつけましょう。 4 そう思う 3 まあまあ 2 あまり 1 まったく		
①真剣に考えることができた。		
②友達の様子が参考になった。		
③学習の中で、自分の考えが深まった。		
④学んだことを今後行っていきたい。		

ポイント 考えたことを記述させたり、学習状況を選択させたりすることにより、児童自らの自己評価もさせていくことができる。